

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふくろうハウス豊田			
○保護者評価実施期間		令和7年3月1日	~	令和7年4月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間		令和7年3月1日	~	令和7年4月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月1日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・聴覚障害のある利用者様にコミュニケーション手段が整っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話・指文字・筆談・視覚的サポートなどお子さんに合ったコミュニケーション方法を選択・習得している。</li> <li>・自己肯定感を高め指導員やお友達同士のやり取りのなかでも社会性を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手話が使える」とは、実は曖昧な表現で、日常的な会話が出来ても手話通訳士や 手話技術検定を取得していない職員も多数おり、コミュニケーション能力の向上や検定取得に向け、法人全体で勉強会や講習を行っている。</li> </ul>
2	・就学や就労を見据えた支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害児向けの学校や職業の選択などの情報を出来る限り共有している。</li> <li>・健聴者との関わりも大事にしている。伝わる喜びと伝わらない場面の想定など将来を見据えた体験の中で成長できる支援を重要視している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的な自立に向けた社会スキル訓練の実施と実践を積極的に行う。</li> </ul>
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・視覚情報を中心とした環境設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっともっと多くの情報を児童に与える努力が必要だと感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクトグラム・文字表示板・フラッシュライトなど聴覚障害に配慮した環境整備が必要。</li> <li>・災害時などに、より安全な対応が出来る様、ツールを増やしていく。</li> </ul>
2	・保護者との連携・相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害児への育児・教育などに関する悩みや情報を作りしやすい環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳についての支援や福祉サービスについて、教育機関と連携を行い今以上に相談しやすい体制や支援の幅を広げる必要がある。</li> </ul>
3			